

学習指導における困難点の分析

国語科における学習困難点

畑 実・鈴木洋一郎・佐藤クニ子・酒井為久

中学校の部

まえがき 学習困難点の設定と研究の方法

国語科における学習の目標は、ことばという音韻的符号を通して生活に必要な理解と表現の能力を高め、思考力を伸ばし、心情を豊かにして、国語を尊重するという態度や知識、技能や習慣を養うにある。そしてこれらの能力や態度は全体的なもので、特に理解と表現とは両者あいまって生活の中で調和してゆかねばならぬものである。したがって生徒の学習即ち言語活動において、理解(または読解)・表現とに要素的な分類をして、その困難点を設定したこの試みは指導過程の一方法であって、その困難点の諸内容が相互密接な関係にあることは言うまでもない。われわれが最初にこの学習困難点を類推したのは、その指導経験から主観的に、または感覚的に抽出し仮定し、しかる後、新指導要領の各学年の内容と対照し、かつ検討を加えたものであった。したがってこれらの事項の中には、われわれの指導困難点として反省されるものも当然含まれていた。そこでこの仮設の正否を確認するために、昨年、読解、鑑賞と表現については2年生を、ことばのはたらきについては、2年、3年生を対象にして数回にわたり調査を試みた。そして調査の結果については、全員の約5割以上が誤答となったものや困難を訴えた事項を困難点の内容として設定してまとめてみた。(表1)この表は学習活動——主にことばの「はたらき」——の面から考察したものである。次に生徒が授業のとき、その具体的な教材(教科書)においてどんな学習困難点をもっているかを追求することにした。(表2)これは表1に表われた困難点の類型がどんな形態に展開されているかを明らかにするためである。

I 主に国語のはたらきの面における困難点(表1)

区分	事項	困難点の内容	類型	考察
読むこと	A 読解	1. 語句の意味を文脈に即して理解すること	A 1	1. 観念的なことばの意味を理解する場合に、言い換え(パラフレーズ)だけにとどまり具体的な事例や経験と結びつけて理解しない。
		2. 語句のもつ意味の範囲や語感をつかむこと	A 2	2. イ.同義語、反対語、対立語などをも考えるようなことばの組織的な学習が十分でない。 ロ.辞書を進んで利用したり、またその効果的な使用に十分慣れていない。 ハ.ことばに注意して読書したり、進んで文章を読む態度が養われていない。
		3. 文章の論理的な構成を理解すること	A 3	3. イ.文章の組み立てを十分に理解していない。 ロ.文脈に必要な接続する語や指示する語のはたらきを理解せず、その全体の把握が十分でない。
		4. 段落相互の関係を読みとること	A 4	4. 連続的に考えを進めて読んでいく力が乏しい。
		5. 文章の主題や要旨を確実につかむこと	A 5	5. 文章の重要な部分と付加的部分を識別したり、長い文章を要約する技能が未熟である。
		6. いろいろな文体の特徴に注意して読むこと	A 6	6. 必要以上に語句の学習に重点をおき、文章全体についてその特徴を考えて読むことがすくない。

国語科における学習困難点

聞くこと・話すこと・書くこと	B 鑑賞	1. 文学作品などをその表現に注意して読むこと	B 1	1. 読解力が不足のために、内容を正しく理解することがない。
		2. 文章から読みとった問題についてものの見方や考え方を深めること	B 2	2. 想像力が豊かでなく、また特に作品についての問題意識の低調なことが著しい。 3. ことばに対する感覚が不十分であり、現実の生活感とかけ離れた教材にはほとんど感動が起きてこない。
	C 表現	1. 話の筋をたどり、その主題から離れないで聞いたり、話したりすること	C 1	1. 話の要旨を正しく理解するはたらきに欠け、またその態度が十分に養われていない。
		2. 必要な用件やことがらを確実に聞くこと	C 2	2. 聞く態度、その理解、発表の技能とこれらが有機的に関連し、活動しない。
		3. 改まった場での応対や発言をすること	C 3	3. 自信のない話は進んでしない。
		4. 会議・討議に参加して話の進行に適する発言をすること	C 4	4.5. 話し方への反省が乏しい。特に長上の人との応対などで、適切な敬語を使用する態度または技能が十分に養われていない。
		5. 自分の感情に支配されないで落ちついた態度で話すこと	C 5	
		6. 必要な用件やことがらを落ちなく文章に書くこと	C 6	6. 読後、その筋をまとめて書いたり、相手の話の要点を書きとめることが少ない。
		7. 必要に応じて、それにふさわしい形態で文章を書くこと	C 7	7. 要点と付加的な部分に注意することが少なく、またその書き方にもくふうが乏しい。
		8. 感想や感動したものを文章や詩に書きあらわすこと	C 8	8. 作文の意義や意欲が低調であり、その感動や経験を進んで回想、反省し表現することがすくない。
読むこと	D 文法	9. 要旨の明確な文章を作ること	C 9	9. 語句の適切な用法と文章の構成、段落などへの注意が乏しい。
		10. 段落の切り方をくふうし、筋道を立てて文章を作ること	C 10	10. 句読点や表記法などについて十分自信をもっていない。
		1. 接続する語句のはたらきを理解すること	D 1	1. 文と文との接続関係を示す接続詞、また用言などにつく接続助詞との区別の理解がむずかしく、「なぜなら…」等を含んだ語句などの用法にも十分に慣れていない。
		2. 指示する語句の意味上の役割をはっきり知ること	D 2	2. 代名詞や「コソアド」を含む連体詞（このような…）などの指示する語句の意味を理解し、またそのはたらきを具体的に確めることが十分でない。
		3. 活用の性質を確めていくこと	D 3	3. 活用の形式に注意したり、またその性質が話しことばや書きことばの上で十分考慮されることが乏しい。
		4. 助詞、助動詞およびこれらと同じはたらきをもつ語句による表現形式の用法に慣れること	D 4	4. 同語句の表現効果の違い（れる、られる）を理解したり、補助用言などの意味用法に十分に慣れていない。特に同じ語の助詞で異なる用法のものは困難を感じる。
		5. 一つの語句がいろいろな意味や用法をもつことを理解すること	D 5	5. 一つのまとまった語句が話の場や文脈の差によりいろいろな解釈の可能性のあることが気づかず、またその場に適切な表現形式を選ぶことが十分でない。例えば敬語法や適切な省略など。

聞くこと・話すこと・書くこと	6. 接頭語、接尾語のはたらきを理解すること	D 6	6. 接頭語、接尾語がどんな意味を添え、どんな場面で用いられるかに慣れていない。
	7. 話しことばと書きことば、共通語と方言などの違いを理解すること	D 7	7. 実際の談話や作文での表現価値やこれらがどんな文脈に用いられるかについて十分考えることをしない。
	8. 品詞論の学習において イ. 用言と助動詞・助詞などの付属語の接続関係を理解すること	D 8 イ	8. イ. 動詞の種類や用言の活用についての理解が十分でなく、その接続関係にある付属語との区別ができない。用言の識別も助動詞や助詞が付いたときに誤りが多い。
	ロ. 副詞や連体詞などの修飾するはたらきとその被修飾語を考へること	D 8 ロ	ロ. 被修飾語が修飾語に続いているときはわかるが、その位置に法則がなく、極めて不安定な国語の特徴においてはこの両者の関係を十分考へることはできない。
	ハ. 接続詞や感動詞など独立語を他の品詞と区別して理解すること	D 8 ハ	ハ. 修飾する語と同じように考へ区別ができない。特に感動詞には誤答が多い。
	9. 文章論の学習において イ. 文節を考へること	D 9 イ	9. イ. 自立語単独で構成する文節はだいたい理解できるが、多くの付属語をも重ねて構成している文節の識別やその文の成分の理解が十分でない。
	ロ. 主語と述語との呼応について考へること	D 9 ロ	ロ. 単文における主語の呼応は理解しているが、中に文が「はさみこみ」になっているような複文などの主語の呼応、またいずれかが省略されているような場合の呼応の発見などは十分でない。
	ハ. 文の種類わけを「形式」と「内容」との二様あることを考へること	D 9 ハ	ハ. 「形式」から種類わけした単文・複文、重文も短い場合は理解できるが、やゝ長文になるとむずかしく、また「内容」からの感動文・希望文・疑問文・平叙文という区別も十分に理解されていない。

Ⅱ 主に国語の現行教材における困難点 (表 2)

	教材単元	類型	考 察
一	○新しい記章 詩・小説 日記文(生徒作)	A 4 A 5 B 2	1. これからの中学生としての生活態度を考へる。 2. 物語の構成を読みとり、最も感動させられる場面を見つけて味わってみる。
	説明文	D 7	3. ことばの正しいきまりを理解し、表記と発音とが正確にできるようにする。 4. きまりにもある例外事項を確認する。 助詞 ワエオ 連濁と連呼のジズ オ段エ段の長音
	○作品を読む 詩 小説	B 1 A 4 A 5 B 2	1. すぐれた詩的表現を味いながら読む。 2. 筋の展開や主題をつかむ。また人物の性格や心理その他の情景のすぐれた描写を味わい、文学作品に親しむ態度をもつようにする。
上	説明文	D	3. 漢語の性質、なりたち、意義を理解し漢和辞典を利用させる。
	○表現する 作文(生徒作) 説明文	C 8 C 10 D	1. 作品を読んだときの感動を自分の表現意欲にまで高める。 2. 主題・構想・表現な考へながら文章を作ることの重要性を知り、作文上の基本的態度・技術を身につける。

国語科における学習困難点

一 下	○文字の力			
	論説文	A 1 A 5 D	A 3	1. 文章の組立てに注意し論説文の読解力を身につける。 2. 文字の歴史、文字と社会、ことばと文字などの関係について考え、文字に対する関心を深める。
	○生活と記録			
	記録文	A 6		1. 各種の記録文を読解し、その意義を知る。
	随筆・紀行文	C 1		2. ものごとを正確に観察し、客観的に表現している文を読み、かつその表現する技能を身につける。
	○詩			
	作詩	A 2	B 1	1. よまれている景色や心の動きを味わう。
	説明文	C 8		2. 詩の表現のしかたを理解し、詩から受ける印象がどのような表現からくるのかを追求する。 3. 日常生活において自然や人間の姿をよく見つめ、考える態度を身につけ、美しさ真実さに感動する心を育てる。
	○短歌と俳句			
	現代短歌	B 1	A 2	1. うたわれている情景や心を感じとりその感想をまとめ述べる。また俳句との違いを理解すること。
	現代俳句	B 1	A 2	2. 俳句の季語やその季節感を理解する。また叙景的、叙情的な俳句をそれぞれ味わう。
	説明文	D		3. 文語文を読むのに必要な歴史的かなづかいのあらましを理解し、文語文の読みに慣れる。
	○ラジオのダイヤル			
	脚本（放送劇）	C 1		1. 話しことばの効果的な表現のしかたを理解し、日常生活の話しことばに役立てる。
	放送講演	C 5		2. 発声、抑揚など他の役との調和を考えて劇の朗読をする。
	街頭録音	A 5		3. 講演をきき、内容・筋道を追って理解する。
	○研究発表会			
	報告文	C 1 C 5	C 2	1. 大勢の前で、考えや研究の成果を正確、効果的に話す。 2. 人の意見や主張、研究発表の要点をメモをとりながら確実に聞きとる習慣と技能を身につける。
	説明文	C 3 C 5	C 4	3. 改まった場で話の進め方、意見の述べ方、ことばづかいに理解をもち、進んで話し合いに参加する態度をもつ。
	○雪			
手紙文	C 6	C 7	1. 社会生活における手紙の意義を理解し、手紙文の書き方に慣れる。	
説明文				
○説話から				
物語	A 2 C 1	A 5	1. 昔の人の風俗、習慣、感情などを理解し、古典に興味をもつ。 2. 物語的要素をつかみ、筋を考えながら効果的に話す。	
戯曲	A 6	B 1	3. 戯曲の構成をつかみ兄弟の性格、心の動きをよみとる。	
○創作				
説明文	A 1	A 3	1. 段落のくぎり方、解説の対象、要旨を考えて読む。	
小説	A 4 B 2	A 5		
○文法的教材				
1. 用言と体言			1. 活用のある語、ない語の区別を知り、その役わりを知る。	
2. 文法の単位			2. 文法の諸単位の性質、役割とその相互関係を理解する。	
3. 文の組立て			3. 主述の関係、修飾の関係、独立語、省略法、倒置法などを理解し、文の組立てに関心をもつ。	
4. 代名詞の使い方			4. 日本語の代名詞の特殊性と敬語との関係を理解する。	
5. 助詞の使い方			5. 助詞の重要性を理解し、助詞に対する関心を深める。	
6. 敬語のきまり			6. 敬語の用法を話し方に生かすつづ理解する。	
7. 動詞の活用			7. 「使い方により語形が変化する」ということを確実に理解し、活用のしかた、語幹・語尾の区別ができる。	

二 上	○詩歌			
	和歌と俳句	B 1	B 4	1. 和歌や俳句を読んで、素朴な人間性、客観写生的な描写の態度を味わう。
	詩と訳詩	A 1	B 3	2. 思想性のある詩や感覚的描写のすくれた詩を読み親しむ。
	説明文	A 3	A 5	3. 詩の修辞上の特色に関心を持ち、その印象効果を深める。
	○感想文・説明文			4. 文語的な詩歌の表現に慣れ、効果的な朗読をする。
	小説と感想文	B 2	C 8	1. 長文を読んで、構成やテーマを読みとり、自分の感想を効果的に表現する。
		C 7	C 9	2. 他人の感想文を読んで、まとめ方、表現のテクニックを身につけ、更に批判したり直したりする。
		A 4	A 5	3. 事実を正確に観察してある文を読み、説明文を作る注意を理解し書く技能を身につける。
	説明文	C 9		わかり易く正確、しっかりした構成、正しい語法
		D		
	○ふたりの伝記			
	伝記	A 4	A 5	1. 伝記という客観的な叙述を読み親しむ。
		A 7	B 2	2. 人間の生き方を読みとり自己社会人生について考える。
	説明文			3. 伝記、論説文などの複雑な文を読み、表現や副題を使って主題をつかんだり、メモの取り方も考える。
			4. 文段の整理や相互の関係などを考える方法に慣れる。	
○演劇				
脚本	A 1	A 8	1. 戯曲のこぼを通して登場人物の性格心理を読みとり、その主題を把握する。	
	A 1	B 1	2. 戯曲における要素・構成・種類・形式などの特色を知る。	
	B 2		3. 翻訳劇の表現を理解し、会話のおもしろみを味いながら、対立する人間のタイプを考え作者の意図をつかむ。	
説明文	A 2	C 5	4. 演劇用語についての知識を深め効果的朗読を身につける。	
			5. よい演劇を鑑賞する態度や演出・上演への意欲をもつ。	
○かなとかな文学				
説明文	A 1～A 8		1. 段落に注意し要点をまとめ、論旨の展開を理解する。	
	D		2. 文脈に即した語句の意味を理解する。	
			3. かなに対する関心と興味を持ち、国字に対する理解をもつ。	
古典訳文	A 2	A 6	4. 平安女流文学とかなの関係を理解する。	
	B 1		5. 源氏物語、枕草子、更級日記など平安文学作品の抄訳を読み、古典に親しむ態度や習慣を養う。	
○長文を読む				
説明文(小説)	A 2	A 8	1. 深く読み、比喩的表現を吟味しながら考える読書の態度をつかむ。	
小説	A 1	A 3	2. 難しい語句を理解し、ユーモア、風刺を味わう。	
	B 1	B 2	3. 文語調・漢文調に慣れ、簡潔な文体に親しみ味わう。	
			4. 登場人物の性格・心理を読みとり、作者の意図を考える。	
			5. 作家の個性に触れ、読書意欲を高める。	
○雑草				
詩(生徒作)	A 2		1. 作品の中に詩精神を読みとり、生活の中に詩を発見する感覚を養う。	
	B 1	C 1	2. 朗読による味わい方を身につけ、またまとめて感想を述べる。	
説明文	C 8		3. 詩の表現に注意しその制作に進んで活用させる。	

国語科における学習困難点

二 下	○自然				
	随筆	A 2	B 1	1. 感想的随筆の美しさを味わい、自然や文化へ考えを深める。	
	散文詩	A 1	A 2	2. 洗練された語句や表現法（文芸的な文章の修辞）に注意し、特にその音楽的造形的表現を味わう。	
		A 6		3. 翻訳文に慣れ、進んで西洋文学を読む能力と態度を養う。	
	随筆	B 1		4. 季節感を扱った叙景文を味わい、自然愛の心情を深める。	
	説明文	A 1	A 4	5. 内容や目的に応じた読書の方法を身につける。	
	○話しことば				
	論説	A 1	A 4	1. 段落を確かめながら文の要旨を読みとる。	
		A 5		2. ことばの働きとその使命の大切なことを理解し、国語を愛する気持を深める。	
	小話と説明文	C 1	C 5	3. 自分の意見をはっきりと話すため、相手の立場を考え、身ぶり、表情、発声など効果的な発表技を高める。	
	随筆	A 5	A 2	4. ことばのアクセントに正しい知識をもち、声の調子、抑揚、速度に注意して効果的な音声表現を理解する。	
		D			
	○日本の古典				
	物語	A 1	A 5	1. わかり易い語り物を読み、古典に親しみこの時代の人たちや考え方を現代のものと比較してみる。	
		A 6		2. 狂言のことばづかひの特色から古典語に慣れる。	
脚本（狂言） 伝記・論説文	A 1	A 6	3. 文語文に慣れ読解力を身につける。		
○わが家					
作文	C 8		1. 対照的な二つの生活文を通してそれぞれの境遇の真剣な生活態度がよい作品を生む要素となっていることを知る。		
			2. 生活の見つめ方と表現の態度を学び作文意欲を高める。		
説明文	C 9	C 10	3. 生活に取材した作文計画を立てる。素材と構想について。		
説明文	C 6		4. 段落に区切り要点をとらえ、メモして的確に内容を書く。		
			5. 言語社会の実態を反省し、よい言語生活の習慣を養う。		
○文学鑑賞					
小説	A 2	A 5	1. 長文の小説を読み主題・構想をつかむ。		
	B 2		2. 登場人物の性格・思想・心の動きや情景を味わい、自分や社会とのつながりにおいて考える。		
			3. 語感を深め豊かな想像力を身につけ、作家の個性にも興味と関心を深めるようにする。		
			4. 外国文学の表現の特色を見出し、その価値を感受する力を伸ばす。		
	C 8		5. 速読の力を養い、読後感想をまとめる。		
○文法的教材					
1. 文節・名詞			1. 文節の続き方、名詞の働きを理解して、読解や表現に役立てる。		
2. 動詞・形容詞 形容動詞			2.3. 用言の活用とその働きを整理し、文の成分として果たす役わりを理解し表現や読解に役立てる。		
3. 自立語と付属語					
4. 助動詞の役わり 助詞の役わり			4. 助動詞や助詞の正しい使い方を理解し、文中における種々の役わりを理解し、その知識を文章の読解に役立たせる。		
5. 助動詞と同じ働きをする動詞・ 形容詞 副詞・連体詞 接続詞			5. 各品詞の性質とはたらきを理解する。特に次について考える。 イ. 用言と補助用言の区別。 ロ. 副詞と用言の連用形の区別。 ハ. 連体詞と形容詞・代名詞また副詞との区別。 ニ. 文章や会議などで多く使用される接続詞の働き。		

	感動詞 こそあど 6.文語と口語 7.文と文との接続			ホ. 感動詞の正しい使い方に慣れる。 へ. 指示語の分類と文中から指示する語句を見つける。 6. 文語と口語との相違を考えその特色を理解する。 口語文の歴史を知り, 国語国字問題に対して関心を深める。 7. 接続詞, 接続助詞, 「こそあど」を効果的に用いて筋道の通った文を作る力を養う。
三	○日本の風物 現代詩 随筆 紀行文	A 2 B 2	A 6	1. 自然観照の文学作品を種々の形式を通して鑑賞し, それぞれの作家の自然観に触れ, 文学と自然の関係に考察を深めていく。 2. 文語文の読解に慣れ, 漢文調の語句の意味を理解する。 3. 漢詩の表現に慣れる。
	○生活と国語 説明文 脚本	C 2 A 5	C 5	1. 解説の要点を的確に把握し, 日本語の特性を考える。 2. 「伝達的手段」としての言語の正しいあり方を考え, 日常の言語生活の改善に役立てる。 3. 説明文の読解力を高める。
上	○三つの舞台 説明文	A 1	A 4	1. 演劇の歴史・形態についての知識を深め, 演劇に対する視野を広める。 2. 劇の要素構成を理解し, 演出や上演の意欲を高める。 3. 古典劇の特殊なことばづかいを理解し親しむ。 4. 登場人物の性格・心理を読みとり, 人間関係を考える。
	脚本	A 6 B 2	B 1	
	○中国の古典 歴史小説訳文 漢詩	A 2 B 1	A 5 B 2	1. 中国文学の種々な形態に触れて関心を深める。 2. 漢詩の形式や構成(絶句・律詩また起承転結)を理解しその特色を味わう。 3. 漢語の読みと意味を正確に理解する。 4. 故事成語の語原・意味を理解し, 実際の表現に役立てる。
	経書 故事成語			
	○文学と人生 説明文	A 1	A 3	1. 主題・構想を読みとり, 小説の中から個人や社会に関する問題を引き出し, 人間の生き方を考える。 2. 登場人物の性格・心理をつかみ, 自分の感動を効果的に表現する。 3. 作家の個性・表現の特徴などについて関心を高める。 4. 複雑な語句の意味を作品の雰囲気の中で理解し味わう。
	小説	A 5 B 1	B 2	
	○評論 評論文	A 3 B 2	A 5	1. 指示語句の内容, 文段の関係, 論理の発展を理解する。 2. 文章の要旨, 批評の対象を的確につかむ。 3. 説得力のある評論文の表現法を学び, 自分の意見を文章にあらわす。
	○吟詠 現代短歌 古典短歌と俳句 説明文	A 2 B 1	B 2	1. 短歌, 俳句の歴史を調べて, 各時代の作家作品の特色を理解し, 詩歌に対する視野を広める。 2. 短歌, 俳句の形式や約束などについての知識を深める。 3. 詩歌の表現技法と印象効果の関心を持ち, 作歌, 作句の意欲を高める。
	○古典と現代 中世説話 小説 中世随筆	A 1 B 1	B 2	1. 古文と現代文のかなづかいや語句などの相違に注意して読み, 古文の読解力を高める。 2. 国文学史の概要を調べて代表的な古典を知る。

国語科における学習困難点

三	近世説話と訳文 和歌と説明文		3. 古典の背景となっている時代や社会, 思想, 生活について関心を持ち, その関連において理解を深める。 4. 説話文学, 民衆文学の特色を理解して古典のおもしろさを味わい, 進んで古典を読む態度を身につける。
	○マスコミ・コミュニケーション 説明文	A 1 B 3 A 5 C 3 C 5	1. 説明文の要旨を速く正確につかむ。 2. 現代社会におけるマスコミの特色や意義を理解する。 3. マスコミの話すことば, 書きことばの基本的な事からを理解しまた関心をもって批判的に読みかつ聞く。
下	○翻訳文学 中国・フランス スペインの作品 説明文	A 6 B 1 B 2 A 5	1. 文学に対する視野を広め, 進んで外国文学を読む意欲を持つ。 2. 翻訳文学の特色を見出し, すぐれた表現を味わう。
	○卒業記念文集 生徒作品	C 6 ~ C 10	1. 過去の学校生活を回想, 反省し感想や意見を表現する。 2. 文集編集の方法を考え, 自分たちの文集をつくる。
	○地の底 小説	B 1 B 2	1. 小説の構成を考えて読み, 主題をつかむ。 2. 主人公の生き方を自分の現実の問題と比較し考える。
	○文法的教材 1. 複雑な構造の文 2. 敬語を正しく 3. 自動詞・他動詞 4. 接頭語・接尾語 5. 助動詞 6. 文法のまとめ		1. 単文, 重文, 複文の構造を理解し, 文の組み立てに関心をもって表現, 読解に役立てる。 2. 敬語の正しい用法に慣れる。 3. はたらきや用法をよく理解しまた区別できる。 4. ことばの構成に関心を持ち, 接頭語や接尾語のはたらき, 用法について正しい知識をもつ。 5. 接続のしかた, 用法, 意味(特に二種の意味をもつもの)の区別を理解し言語活動に正しく生かすことができる。 6. 既習の文法の知識を体系的に整理して, 各品詞の概念と文中で果たす役わり, また文や文章の構造展開を理解し, 読解や作文の学習に役立てる。

高等学校の部

まえがき

この項における分析も中学校のそれに準じて行った。つまり, 教師の経験と生徒に施した調査の結果に基づき, 約半数の生徒が正答できないもの, または学習上の困難を感じるものを困難点とした。生徒への調査は既習の国語甲, 乙, 漢文の全教材に対する興味, 関心, 理解等の度合について行なった。ここでは新指導要領に従い, 国語甲の中から古文, 漢文を除いたものを主として イ・現代国語とし, 国語甲の中の古文と国語乙, さらに国語甲の中の漢文および国語乙に対する漢文の四つを合せ ロ・古典とし, このイロの二つについて分析することにした。新しい現代国語では聞くこと, 話すこと, 書くことが相当重視されているが, 現行教科書では読むことが重力を占めている関係上教材が少ないということを附記しておく。

I 現代国語

事項	困難点の内容	教材	考察
	1. 生活におけるいろいろな話の場に慣れ, 自信と落ち着きとをもって聞いたり話したりする態度を養うこと	○生活全般を通じて	1. 年令的に話したがらない時期であり, 気のあった少数の友とはよく話すものの, その他はじっくり人の話をきいたり話をしようとしなない。

<p>A (聞くこと・話すこと)</p>	<p>2. 材料を整える能力を養い、確実に生き生きとした材料によって主題を展開させて話すこと</p> <p>3. いろいろな会議、討議などに参加して、積極的、建設的に発言するとともに、進行に必要な役割を勤めること</p> <p>4. 話の目的や種類に応じて正しく聞く態度や技能を養うこと</p> <p>5. 語句を豊かにし、音声に注意し、正しく適切な表現をくふうして話すこと</p>	<p>○生活全般を通じ、とくに討論、弁論など</p> <p>○大久保忠利・コトバの技術</p> <p>○吉川幸次郎・儒者の言葉</p> <p>○金田一春彦・ことばの研究室</p>	<p>2. 討論、話し合い、弁論などで発言する人が少数者に限られ、参加しようとする意欲が低い。いゝことを、むずかしいことを言おうとして、具体的なことを考えない結果、どうどうめぐりをしている。</p> <p>3. とくに生徒会関係の会への参加は低調で、消極的、非建設的すらある。会のもつ意義の認識不足、生徒会での活動の意義をつかんでいない。</p> <p>4. 講演、研究発表などを聞く態度そのものができていなくて、喧騒をきわめ無雑作に聞いている。</p> <p>5. 平素ことばに対する関心もうすく、語い数が少ない。その結果話が平板に流れ表現がへたである。また一般に語尾があいまいである。</p>
<p>B (読むこと)</p>	<p>1. 目的に応じて、各種の書物を選んで読み、教養を高める態度を身につけること</p> <p>2. 必要に応じて、各種の参考文献を適切に利用する態度を養うこと</p> <p>3. 文章を読んで、主題や要旨をつかみ、また、人生や社会の問題について考えを深めること</p> <p>4. 意図や発想と表現の関連に注意しながら読むこと</p> <p>5. さまざまな文体にふれ、それぞれの表現の特色を理解し鑑賞すること</p>	<p>○全教材を通じて</p> <p>○井上政次・大和古寺</p> <p>○金森徳次郎・学生と読書</p> <p>○宮沢俊義・神々の復活</p> <p>○ゲーテ・片山敏彦訳・月にさゝぐ</p> <p>○中村草田男・石田波郷・加藤楸邨・現代俳句</p> <p>○斎藤茂吉・蔵王山五首</p> <p>○井伏鱒二・なゝかまど</p> <p>○トーマスマン・関泰祐・望月市恵訳・魔の山</p>	<p>1. 読む対象が単なる好き嫌いから固定化する傾向があり、また他教科の学習に追われることも手伝って、じっくり読書する心のゆとりがない。</p> <p>2. 整備充実された図書館があるにも拘らず、正しい有効な利用の仕方を知らないものが多い。 芸術作品の鑑賞批評文などを読むときには実物に接するのが最良だが、写真、スライド、参考文献を適切に利用することもしない。</p> <p>3. 接続詞や指示語を無造作に看過しがちの結果、文のつながりや構成が的確につかめない。作文の時間が少ないことなども手伝って要約する力も低い。これらの教材は書物の上だけのことにとどめ、実人生や実社会の問題として思考したり話し合いをしない。</p> <p>4. 5. 結晶ともいうべき短いことばの奥にひろがる世界を描くのに骨が折れる。季節感に乏しく、生活感情ともマッチしない。思想的なもの、主情的なもの、象徴的なものは幾通りにも解されるだけに、概して理解が困難である。 翻訳文独特のいゝまわしになれていないため、その文章を理解するだけでもむずかしい。 「なゝかまど」の文のごときユーモアに富んだ、それでいてペースのある、しかもヒューマニティがにじみ出ている味わいをみることなく、筋だけを簡単に読むだけでじっくり味わわない。</p>

国語科における学習困難点

<p>(読むこと)</p>	<p>6. 文章の論理的な構成を理解し、論拠を明らかにしながら、その論旨をつかむこと</p> <p>7. すぐれた文章表現を読み味わうことによって、ことばに対する感覚を鋭くすること</p> <p>8. 作品中の人物の性格、心理、思想、また、作者の想像力やものの見方、感じ方、考え方などを読みとり、それらについて意見をもつこと</p> <p>9. 当用漢字がじゅうぶんに読めること</p> <p>10. 国語の変遷のあらましや、近代文学の流れを理解すること</p>	<p>○和辻哲郎・風土、阿部次郎・世界文化と日本文化</p> <p>○西田幾太郎・善の研究</p> <p>○志賀直哉・城の崎にて</p> <p>○島木健作・生活の探究</p> <p>○芥川竜之介・戯作三昧</p> <p>○全教材について</p> <p>○吉沢義則・国語史概説</p> <p>○本多秋五・『白樺派の文学』</p>	<p>6. 哲学的なことば、学術的なことばそのものに対する明確な理解がない。接続詞、指示語等をよくみずつながりを考えないで、また、段落に区切って要約しさらにそれを構成するという作業をしないで、概括的にとらえようとする。</p> <p>7.8. ことばに対する注意、関心が低い。ことばのもつニュアンスをよくみようとしな。小説では筋を追うだけで能事終れりとし、内面的なものを深く考えない。読後感を書くことをきらう。</p> <p>9. 当用漢字を読んだり書いたりする努力をしない。</p> <p>10. 国語史は音韻と意味とからみ、その変遷がこみいってくるので、対象そのものへの興味がうすい。 文学史は思潮ないしは流派が交替し複雑であるので、思潮ないし流派そのものの理解も明確でない。</p>
<p>C(書くこと)</p>	<p>1. 正確な観察力と判断力、生き生きとした感受力、豊かな想像力など、書くことの基礎となる能力を高めること</p> <p>2. 生活に必要な各種の文書を、目的や場に応じた形式に従って、読みやすいようによくふうして書くこと</p>	<p>○中谷宇吉郎・冬の華</p> <p>○市原豊太・模索と彷徨</p> <p>○林芙美子・日本現代文章講座</p>	<p>1. 観察が大まかで判断もあまい。すぐれた観察記録、写生文をあまり読まず、書くことも少ない。</p> <p>2. 書くことも少ないが、これらに対する常識的なことがまず身につけていない。</p>
<p>D(A・B・C)</p>	<p>1. ことばのきまり</p>	<p>○教材に即して</p>	<p>1. まぎれやすい品詞の識別、助動詞等の品詞、文章法が理解しにくい、基礎をしっかりと理解し憶えていない。敬語的用法に対しては不注意である。</p>

Ⅱ 古 典

事項	困難点の内容	教材	考 察
<p>(古 文)</p>	<p>a 1. 古典としての古文に親しむ態度を養うこと</p> <p>2. 古典としての古文に親しんで、国語に対する愛情を育て、言語感覚をみがくこと</p> <p>3. 古典としての古文のすぐれた表現を鑑賞すること</p>	<p>a 入門時～全教材</p>	<p>1. 古文はむずかしいものだ、古くさいものだという先入感がある上に、歴史的かなづかい、当用漢字以外の漢字、特殊なよみ方をする語句等に親しんでいない。</p> <p>2.3. 解釈して通りいっぺんの意味をつかむのがせいっぱいであり、他の基礎教科に追われ、あまつさえ入学試験の激しさからそこまで到達しにくい。</p>

(古 文)	<p>b4. 文脈や段落を考え語句や文の意味をとらえて、主題や要旨や大意を正しくつかむこと</p> <p>5. 語句や文の意味を文脈の中でとらえること</p> <p>c6. 古文の基本的な重要な語句や修辞の意味と用法を理解するとともに、現代語との相違や関係にもふれること</p> <p>7. 古典としての古文を讀んで、日本人の思想や感情を広い視野からとらえるように努め、ものの見方、感じ方、考え方を深めるように努めること</p> <p>d8. 古文の読解に必要な辞書、参考書、図表などの各種の参考資料を広く利用して古文の読解を深めること</p> <p>e9. 古文の読解に必要な文語のきまり(かなづかいや文語文法など)や、国語の変遷、文学史のあらましなどを知ること</p>	<p>b 源氏物語 蜻蛉日記 更級日記</p> <p>c 伊勢物語 土佐日記 奥の細道 謡曲 万葉集 古今集 新古今集 俳諧</p> <p>d 大鏡 増鏡</p> <p>e 文語文法 文学史 国語史</p>	<p>4. 省略があり、敬語が駆使せられ、長いセンテンスであることなどから、人物関係、文節のつづきぐあい、地の文と会話の部分との区別等が混乱し、文脈ひいては大意等を正しくつかめない。</p> <p>5. 固定した意味で律しようとしがちである。</p> <p>6. 基本的な重要な語句は現在も使われているが部分的に変わってきたもの、現在とは違っているもの、古語独自のもの等があり混同しやすい。又感情表現のことは、たとえば「あはれなり」等の形容動詞、形容詞等は古典時代の大人の感情を表現範囲の広いことばで表現してあり、そのことばが作品全体にテーマ的な働きをしているのでなおさらむずかしい。枕詞、序詞、懸詞等の修辞上の技巧はもちろん、それをいかに解釈にむずびつけていくかがむずかしい。 地の文と歌とのつながり、句と句とのつながり等を理解しがたい。</p> <p>7. とくに歌風の相違等は明確につかみにくい。以上表面上の解明だけでも相当困難なのに、これらの教材は主観的主情的な内容をもつので、内面上の問題はさらにむずかしい。</p> <p>8. 安易な参考書により手っ取り早くすまそうとする。これらの教材は歴史的知識がないためにとくに人物関係がわかりにくく、理解を困難にしている。</p> <p>9. 文語文法ではとくに助動詞、助詞、さらに識別しにくい品詞、敬語法、文節と文節の関係の理解が困難だが、これは基本がしっかり理解されていないこと、挿入句が入ってセンテンスが長い、省略がある、微好な意味をもたせている等からきている。 文学史では各時代の流れないしは特色、江戸時代の小説類の区別を知ることがむずかしい。いたずらに書名、人名を憶えねばならぬとして学習を困難ならしめているという面もある。 国語史は音韻と意味とからみその変遷がこみあってくると、対象そのものへの興味がうすいことも手伝っている。</p>
	(漢 文)	<p>a1. 古典としての漢文に親しむ態度を養うこと</p>	<p>a 入門時～全教材</p>

国語科における学習困難点

<p>(漢文)</p>	<p>2. 文や語句について、その意味、用法、構造を理解すること</p> <p>b3. 文脈や段落を考えて、主題や要旨や大意を正しくつかむこと</p> <p>4. 詩や文章の表現上の特色、ことにその簡潔なよさや論理性を味わいながら読み、ものの見方、感じ方、考え方を深めること</p> <p>C5. 辞書、参考書、図表などを適切に利用して、漢文の読解を深めること</p> <p>6. 漢字、漢語に対する知識を身につけて国語の理解や表現に役立たせること</p> <p>D7. 古典としての漢文を読んで、わが国の言語、文学、思想との関係を知り、そこに盛られている文化の特質や意義がわかること</p>	<p>b</p> <p>○大学、中庸、論語、孟子、荀子、老子、莊子、韓非子、語録（朱子、佐藤一斎）</p> <p>○柳完元・捕蛇者説、蘇轍・赤壁賦、白居易・与微之書</p> <p>○白行簡・李娃伝</p> <p>○唐詩</p> <p>c</p> <p>○十八史略、史記、史編（蘇轍、三国論）</p> <p>○故事、文字学</p> <p>D</p> <p>○長恨歌、琵琶行</p> <p>○古事記、風土記逸文、懷風藻、下岐蘇川（斎藤拙堂）</p>	<p>2. 難解なしかも日常あまり使用されない語句が多く出てくるので、そのよみ、意味、用法が把握しにくい。送仮名が歴史的仮名づかいであること、再読文字、置辞、助辞等もよみ方、読まない字、意味、用法等が複雑である。語法も国語と異っている。</p> <p>3,4. 既述した如く読むことはまず困難、次に語句の抵抗、簡潔な表現であるためにスムーズに文脈がたどれない。比喻をもって論旨を展開するものは、それと本論との関係がわかりにくい。圧縮された詩にもられた豊富な内容をくみとることがむずかしい。とくに孔子をはじめその他の諸子の思想的なものの理解、さらにそれらの中で非今日的なものについてゆけない反撥感が学習を困難たらしめている。</p> <p>5. 理解の背景となる中国の歴史的、地理的な知識に欠けていることがいっそう理解を妨げている。漢和辞典、故事成語辞典等を利用して漢字、漢語に対する的確な理解を持つとうとしない。漢字制限、略字、ことばの平易化等の時勢も手伝って漢字、漢語への留意が低い。</p> <p>7. 内容より修飾的な形容のことばのむずかしさにまず抵抗を感じる。古事記等の日本的な漢文のよみがむずかしい。</p>
-------------	--	--	---